

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-172480

(43) 公開日 平成9年(1997)6月30日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M	1/21		H 0 4 M 1/21	A
				M
H 0 4 Q	7/38		H 0 4 B 7/26	1 0 9 T

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平7-330184

(22) 出願日 平成7年(1995)12月19日

(71) 出願人 390000974

日本電気移動通信株式会社

横浜市港北区新横浜三丁目16番8号 (N

E C移動通信ビル)

(72) 発明者 藤本 英樹

神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目16番8

号 日本電気移動通信株式会社内

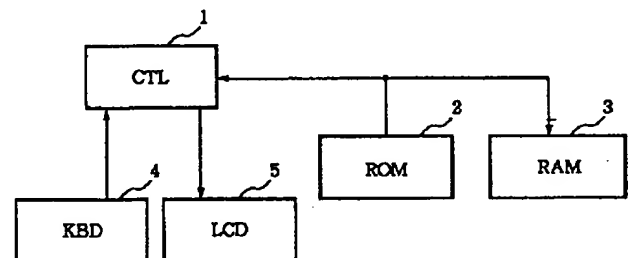
(74) 代理人 弁理士 京本 直樹 (外2名)

(54) 【発明の名称】 市外局番検索表示装置

(57) 【要約】

【課題】従来の携帯電話機では、ユーザは市外発信時にダイヤルすべき市外局番号を電話帳の索引か市外番号案内サービスにより得ており、調査に時間と費用がかかっていた。

【解決手段】ユーザは主な通信相手が居る地名情報（都道府県名と市町村名とで構成される）とこれに対応する市外局番号の一覧をRAM3に登録しておく。この状態で、ユーザがある相手に市外発信するためその相手加入者が居る地名情報をKBD4から入力すると、CTL1はRAM3にこの地名情報が登録されているかどうかを調べる。例えば、ユーザが“よこはま”または“ヨコハマ”もしくは“YOKOHAMA”と入力すると、CTL1はRAM3に“横浜”が登録してあるのを確認してRAM3を検索し、“横浜”に対応する市外局番号“045”を得て、LCD5に“横浜：045”と表示する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 地名に対応する市外局番号を格納するRAMと、通信相手加入者が居る地名情報を入力するための情報入力部と、この情報入力部から前記地名情報が入力されたとき前記RAMを検索してその結果を出力する処理プログラムを格納するROMと、このROM内の前記処理プログラムを実行する制御部と、前記検索結果の市外局番号を表示する表示部とを備えることを特徴とする市外局番検索表示装置。

【請求項2】 前記地名情報は前記通信相手加入者の居る都道府県名および市町村名を含み、発信者が前記地名情報の一部を入力したとき前記制御部は前記地名情報の一部に対応する少なくとも1つの市外局番号を前記表示部に表示することを特徴とする請求項1記載の市外局番検索表示装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は市外局番検索表示装置に関し、特にユーザがあらかじめ地名に対応する市外局番号の一覧を登録しておき、相手加入者が居る地名情報を入力したときそれに対応する市外局番号を自動的に検索して表示する携帯電話機の市外局番検索表示装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の携帯電話機から市外発信するとき、通信相手が居る場所の市外局番号+相手加入者番号をダイヤルするのが一般的である。そして、発信者は電話帳を索引するかまたは市外番号案内サービスによってダイヤルすべき市外局番号を得ていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この従来の携帯電話機では、市外発信するときにダイヤルすべき市外局番号を電話帳の索引または市外番号案内により得ていたため、調査に時間および費用がかかるという問題点があった。

【0004】本発明の目的は、ユーザが通信相手加入者が居る地名に対応する市外局番号の一覧を登録しておくことにより、市外発信時に相手の地名情報を入力するだけでダイヤルすべき市外局番号が表示される市外局番検索表示装置を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明によれば、地名に対応する市外局番号を格納するRAMと、通信相手加入者が居る地名情報を入力するための情報入力部と、この情報入力部から前記地名情報が入力されたとき前記RAMを検索してその結果を出力する処理プログラムを格納するROMと、このROM内の前記処理プログラムを実行する制御部と、前記検索結果の市外局番号を表示する表示部とを備えることを特徴とする市外局番検索表示装置が得られる。

【0006】また、前記地名情報は前記通信相手加入者

の居る都道府県名および市町村名を含み、発信者が前記地名情報の一部を入力したとき前記制御部は前記地名情報の一部に対応する少なくとも1つの市外局番号を前記表示部に表示することを特徴とする市外局番検索表示装置が得られる。

【0007】

【発明の実施の形態】次に、本発明について図面を参照して説明する。

【0008】図1は本発明の市外局番検索表示装置の一実施形態を示すブロック図、図2は図1における動作の流れを示すフローチャートである。

【0009】まず、図1を参照すると、本実施形態の市外局番検索表示装置は、地名に対応する市外局番号を格納するRAM3と、通信相手加入者が居る地名情報を入力するための情報入力部としてのキーボード(KBD)4と、KBD4から地名情報が入力されたときRAM3を検索してその結果を出力する処理プログラムを格納するROM2と、このROM2内の処理プログラムを実行する制御部(CTL)1と、CTL1による検索結果の市外局番号を表示する表示部(LCD)5とを備えている。

【0010】続いて、本実施形態の動作について図2を併用して説明する。

【0011】まず、ユーザは主な通信相手が居る地名情報とそれに対応する市外局番号の一覧を一般に知られている手法でRAM3に登録しておく。ここで、地名情報は都道府県名と市町村名とで構成されるものとする。ただし、相手地が主要都市(例えば、横浜、札幌、鹿児島等)であるときは、都市名だけで登録してもよいものとする。

【0012】次に、ユーザがある相手に市外発信するためその相手加入者が居る地名情報をKBD4から入力すると、CTL1はRAM3にこの地名情報が登録されているかどうかを調べる(ステップS1)。

【0013】例えば、ユーザが“よこはま”または“ヨコハマ”もしくは“YOKOHAMA”と入力すると、CTL1はRAM3に“横浜”が登録してあるかどうかを調べる。

【0014】S1でYESであれば、CTL1はRAM3を検索し、“横浜”に対応する市外局番号“045”を得て(S2)、LCD5に“横浜：045”と表示する(S3)。

【0015】ユーザはこの表示を見て通信相手の電話番号“045-xxxx-xxxx”をダイヤルすることになる。

【0016】なお、S1でNO、つまりRAM3に“横浜”が登録してなければ、ユーザは電話帳で調べて横浜の市外局番号を知るか、またはこれを新たに登録することになる。

【0017】また、本実施形態では、例えば、ユーザが

相手地名として“かながわ：よこ”と地名情報の一部をKBD4から入力したときは、LCD5に“横浜：045”、“横須賀：0468”と複数の表示をすることも可能であり、ユーザはこの表示から所望の市外局番号を知ることができる。

【0018】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、地名に対応する市外局番号を格納するRAMと、通信相手加入者が居る地名情報を入力するための情報入力部と、この情報入力部から地名情報が入力されたときRAMを検索してその結果を出力する処理プログラムを格納するROMと、このROM内の処理プログラムを実行する制御部と、検索結果の市外局番号を表示する表示部とを備えることにより、また、上記地名情報は通信相手加入者の居る都道府県名および市町村名を含み、発信者が上記地名情報の一部を入力したとき制御部は地名情報の一部に

応する少なくとも1つの市外局番号を表示部に表示することにより、ユーザは市外発信時に電話帳を索引したり市外番号案内サービスを受ける必要がなくなるという効果を有する。

【図面の簡単な説明】

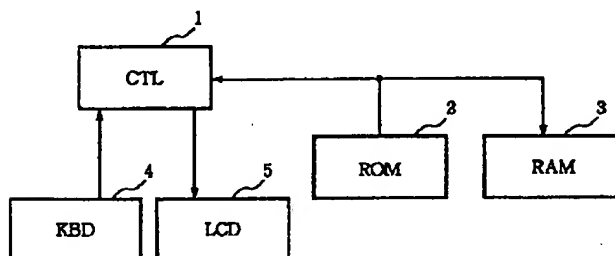
【図1】本発明の市外局番検索表示装置の一実施形態を示すブロック図である。

【図2】図1における動作の流れを示すフローチャートである。

【符号の説明】

- 1 制御部 (CTL)
- 2 ROM
- 3 RAM
- 4 キーボード (KBD)
- 5 表示部 (LCD)

【図1】



【図2】

